



平成30年度福田学園校友会総会 記念講演

『被災地の端っこの病院』からの提言

——兵庫県立淡路病院救急外来映像が語り継ぐもの——

神戸百年記念病院内科部長 水谷和郎先生



災害時に医療従事者のあなたは何を考え、どう動くのか？

阪神淡路大震災の当日、兵庫県立淡路病院で当直をしていた水谷和郎先生が、救急対応に当たった病院の貴重な記録映像をもとに講演してくださいませ。



講師 水谷和郎先生

山口大学医学部卒。兵庫県立姫路循環器病センター循環器内科医長などを経て、現在、神戸百年記念病院内科部長。社会医学系専門医・指導医(日本集団災害医学会)。

日時:平成30年5月20日(日)13:30~15:30

場所:大阪リハビリテーション専門学校 6階講堂

会費:卒業生・在校生 無料 一般 500円

申込先:koyukai@ocr.ac.jp

★卒業生・在校生「総会申し込み」と記載の上

- ①氏名 ②卒業生または在校生 ③所属 ④職種 ⑤連絡先
- ⑥経験年数 を明記してお申し込みください

★一般「5月20日講演申し込み」と記載の上

- ①氏名 ②職業 ③メールアドレス を明記してお申し込みください

—— 勤務中の有事に医療従事者としてまず何をすべきか ——

2011年3月11日、あの日、あなたはどこで何をしていましたか？

私は、2号館の601教室で、ST専攻科1年生の就職セミナーに立ち会っていました。最初は“立ちくらみかな”と思いましたが、天井の照明が揺れているのを見て、地震だとわかりました。他の先生が前のドアを開けて、いざという時の退避路を確保してくださいました。この段階では、揺れが収まるのか大きな地震なのか、もちろん東北のことも、まだ何もわかりませんでした。

その時、私が何を考えていたかというところ、いまこの場で学生さんたちの安全を確保する責任が私にはある。しかし、いったいどういう指示を出せばいいのだろう？ すぐ近くの小学校のグラウンドが広域避難所だけれど、大川が氾濫するならば6階にとどまっていた方が安全？ 非常時にどこに指示を仰いで学生さんの安全を確保するのか、まったく決まっていなかったことに気づき、愕然としました。そして、命を預かる判断を伴う自分の責任の大きさに、震えが出るほどでした。

病院で、訪問先で対象者さんの安全を守る責任は、みなさんも全く同じだと思います。勤務中の有事に、医療従事者としてまず何をすべきか、それは経験者の知恵を拝借するのが一番ではないでしょうか。水谷先生は、兵庫県立淡路病院で阪神大震災を経験され、その時の映像をもとにお話してくださいませ。東日本大震災の時には、事前にビデオを見ていた病院スタッフが、地震が起きたときに何をすべきかそれぞれが考えてくれたということです。ぜひ、この機会に学んでおきましょう！

校友会理事 ST 前田留美子